

都市・地域計画ゼミ それぞれの新しい常態

-contents-

2. 巻頭言
3. ゼミ内教員・学生の活動
- 4.5. 2020年度卒業論文
6. セミナーⅠ 基礎調査、新4年生研究テーマ、2020年度ゼミ外卒業設計
7. 卒業証書授与式、2020年下半年期ニュース、ゼミFacebook2020年度下半年期編集部ピックアップ
8. OB・OG紹介、都市計画学会、写真コンテスト佳作作品

No.08  
2021.5

# URPS

URBAN & REGIONAL PLANNING Seminar.



秋田県立大学 建築環境システム学科 都市・建築計画学研究グループ 都市・地域計画ゼミ

# 巻頭言

## D X (Digital transformation) と都市

2000年以降においてICT技術の普及・活用が急速に進み、生活・生産等に関する利便性は格段に向上した。新型コロナウイルスの感染拡大に対しても、幾つかの制約はありつつレジリエンス性の確保に寄与している。その反面、ITプラットフォームの情報独占や巨大な富の偏在化、新型犯罪の発生、あるいはジョージ・オーウェルが小説「1984」で描いたような監視社会や、細田守監督が映画「サマーウォーズ」で見せた近未来の管理社会への懸念も生まれている。

いずれにせよ、DXが今後の生活・生産等の様式を変えていくことは確実であり、それに応じる都市のあり方が議論されている。

### ●PLATEAU（プラトー）

こうしたなか、国土交通省はPLATEAUプロジェクト\*を始動させた。これは、我が国において3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化を推し進めるものであり、Level of Detailという概念を用いて建物一つひとつを4つのレベルでデータ化し、BIMの概念を都市レベルに拡張して都市空間の情報を一元的に管理・蓄積・利用しようとするものである。

景観シミュレーションはもとより、自動運転、ドローン配送の基盤となり、さらにスマートフォン等から得られるビッグデータを組込むことで都市活動が可視化でき、災害対応等の都市シミュレーションも可能となる。さらにAIなどの最先端技術を組み合わせることにより、移動、物流、支払い、医療・介護、行政、教育など、生活と生産等にかかわるすべての分野をスマート化するスーパーシティ実現の空間基盤（都市OS）の一部となるものである。

### ●社会実装の展望

すでに藤沢サステイナブル・スマートタウンでは、先端技術を活用した実証実験が始まっている。トヨタは、裾野市に未来都市「Woven City」の整備に着手している。これらは工場跡地等を利用した開発型であって、各地で取組みが広がるだろう。いわゆる都市の「図」の部分におけるDXの展開である。

一方、東北地方都市のような持続性に課題を抱える都市の再編適用には検討を要する。既存都市に広がる「地」の部分の対応は重い課題である。こうした適用においては、当初からフルセット型を構想せず、都市の特性に応じて適用分野を幾つか絞り込み、長期に渡って順次適用を拡大していくことが実現性と発展性の点で重要ではないだろうか。

いずれにせよ、直面している課題解決型の都市計画に加え、近未来的な都市計画を構想することは面白くもあり、興味深い。

※ <https://www.mlit.go.jp/plateau/>

山口 邦雄（やまぐち くにお）  
都市・建築計画学研究グループ

## 中国の空き家問題①

昨年度、山口先生と共に東北6県における空き家活用による移住支援事業の主体間連携に関する研究を行いました。今期のN.L.にも記載されていますが、興味深い事例がいくつかありました。コロナ禍の前に中国の民家調査を行った時に、若者たちが都会へ出稼ぎに行く等の原因で中国の農村地域でも空き家が発生していることに気が付きました。昨年度の空き家研究がきっかけで中国の空き家問題に関する研究はどうなっているのかに関心を持ち、中国の空き家問題に関する研究を調べてみました。

日本のJ-stageに公開されている中国の空き家に関する研究は1件もないことにびっくりして、中国のj-stageに相当する「知網」で検索してみようと思いましたが、まずは「空き家」という概念はどのような中国語で表記されているのかを整理しなければなりません。

直接的に翻訳すると、中国語の「空置」は空いていることを意味し、「房屋」或いは「房」は建物或いは家屋を指しており、「空き家」は中国語表記の「空置房屋」になるだろうと思われそうですが、残念ながら「空置房屋」は分譲マンション（商品房）の売れ残りを指しているようです。日本語の空き家という概念は学術的な中国語表記がないようですが、意味としては「空心房」が使われ、それに対して都会への人口流出等の原因で、空き巣状態になった過疎化の進んでいる農村集落は「空心村」と呼ばれています。

「知網」で調べた結果、「空心房」に関する学術論文は24編に対して、「空心村」に関する研究は1218編でした。なぜ中国では空心村に関する研究は圧倒的に多いのかと思いつつ、ダウンロード数の多い論文を読みました。中国の空心房、空心村の形成は人口流出が原因の一つとなっていますが、最も注目されたのは土地問題だそうです。

中国では、都市部の土地は国所有であり、使用権だけ商品化され、国民に有償譲渡されていますが、農村部の土地は村民による集団所有とされています。集団所有の土地はさらに農地、建設用地、その他に分類されますが、集団用地の利用は徹底的に管理できていない事が一般的だそうです。特に新たな家屋を建てる時に交通の利便性を図るため、従来の集落の外周に建てる事が多いようで、集落内の人口は都会に流出していても集落の外周に流出しています。中国の研究者は空心房を改善するため、農村の土地利用を徹底的に管理して空心村問題から改善しなければならないと指摘しています。

李 雪（り せつ）  
都市・建築計画学研究グループ

# ゼミ教員・学生の活動

○今回の N.L は通算 25 号目です。

表紙の写真「秋田駅西口芝生広場」

撮影者：山口邦雄教授

策定中の総合都市計画方針「ウォーカータウン」

の先行プロジェクトとして改修整備された駅西口広場。

## 鳥海山麓における農業改革による建築様式の普及に関する研究

秋田県南部の鳥海山麓に広がる一帯は、明治後半になり齊藤宇一郎らによる乾田馬耕と耕地整理の指導により豊かな耕土に生まれ変わった。各農家は農耕馬を飼い、堆肥を作り出すために、厩兼堆肥小屋を必要としたため、屋敷内にそのための建物を作った。鳥海山は木材だけではなく石材にも恵まれており、鳥海石と言われる安山岩は厩・堆肥小屋の壁材料や用水路の護岸として広く使われた。これらの農耕や建設のために大工、左官、鍛冶屋が誕生し、彼らが残した混構造の建物が秋田県立大学本荘キャンパス所在地の由利本荘市からにかほ市一帯の村落にたくさん残されている。同じ集落の堆肥小屋でも石の形や石の積み方、石で作られた部分の高さが異なっている。

これから天気の良い日には現地に行って実測調査と聞き取り調査を行い、天気の良くない日には文献調査を進め、当時の建設技術及び生産組織を明らかにし、農業改革による建築様式の普及のあり方を分析します。秋田県南における堆肥小屋に興味のある方は google streetview を使用して「にかほ畑福田」という集落をご覧いただければと思います。

(李雪 助教)



## 学生と地域の交流

由利本荘市は、2019年7月から大学生と教員、地元の建設業者で連携し空き家を複合機能住宅に改修する新しい取り組みを行いました。改修対象となった空き家は築40年程の一般的な住宅であり、歴史ある建物が立ち並ぶ石脇通りにあります。改修後の施設は、「ここ（石脇）」から地域活性化のための知恵や交流が「湧き」でてくることを期待して「ここわき」と名付けられています。

2019年8月に私も含め学生サークル秋田学生まちづくり団体に所属する学生が実測や劣化調査を行い、2020年8月から改修工事に取り掛かりました。板垣教授にもアドバイスをいただきながら作業を進めました。国からの補助金400万円を使い、改修工事を行いました。地元の建設業者である志村建設さんにご指導いただき、サークル外の学生も参加して解体・フローリング張り・壁紙張り等、可能な範囲で改修を行いました。改修は既存の躯体の劣化による歪みも考慮しなければなりませんでした。職人さんは臨機応変に対応しておりとても印象に残りました。

この施設は大きく学生シェアハウス、由利本荘市への移住促進、関係人口の創出を目的とした移住希望者向け宿泊施設と2つの機能を持っています。さらに、施設の中心には共有スペースがあり、今後地域と学生の交流の場として活用していく予定です。2021年2月に運営協議体が設立され、持ち主と入居者の橋渡しとして今後管理運営を行います。

(高橋樹凛)



## 一番堰地区の市街地開発事業ワークショップ開催！

本荘市内の一番堰地区で約40haを想定した市街地開発事業が検討されており、市広報2/15にも掲載されました。その内容に関するワークショップが、当建築学科の協力のもと3/15に大学共通棟K316で開催されました。この40ha全体の構想はTDKの発意に基づくものであり、先行して取り組む約10ha分は由利本荘市の総合計画にも新たに位置づけられ、TDK社員寮、病院、特別養護老人施設、商業施設が建設される予定です。

当日のワークショップでは、学生9人とTDK若手社員8人の計17人が3グループに別れ、「街づくり」「地区の共用施設」「TDK社員寮」の3つを検討しました。都市・地域計画ゼミからは、高橋、藤井、吉田の3名が参加し、ワークショップのまとめ発表など活躍していました。

(山口邦雄教授)



### 1. 背景・目的

成熟期を迎えたニュータウン（以下、「N.T.」）における生活環境の管理の困難化等への対応としてのエリアマネジメントの総合的展開において、民間事業者が主体若しくは住民組織に参画する形が望ましい。そこで、成長管理型エリアマネジメントに着目し、事業者の取り組み傾向と取り組みに対する居住者評価を明らかにすることで、N.T.の持続性確保に有効な取り組みを考察することを目的とする。

### 2. 方法

事業者の取り組み傾向について、全国N.T.リストより成長管理型を抽出し、ヒアリング調査等より、エリアマネジメント項目への関与の観点から評価・分析を行った。さらに、ケーススタディN.T.を設定後、居住者にアンケート調査を実施し、事業者の取り組みに対する居住者評価を明らかにし、N.T.の持続性確保に有効な取り組みを考察した。

### 3. 結果・考察

成長管理型エリアマネジメントが行われているN.T.において、事業者の防犯性や快適性、地域経済の活性化に関する取り組みによって、住民組織のみの評価に比べ、N.T.全体の評価が高くなっている。これらは、住民組織では行いにくく、居住者のニーズに答えつつも事業者として利益が得られるため、導入されていることが考えられる。成長管理型エリアマネジメントとして、「地域資源活用型」と「循環住宅供給型」の2種類が見られ、「循環住宅供給型」においては、アンケート結果より、利用者の満足度が高く、N.T.の持続性確保に有効だと認識している人が多いことが明らかになり、「循環住宅供給型」は、N.T.の持続性を確保する上で、有効であると考えられる。

		錦ヶ丘 N.T.			ユーカリが丘 N.T.			美奈宜の杜 N.T.		
		事業者	住民組織	N.T.全体	事業者	住民組織	N.T.全体	事業者	住民組織	N.T.全体
(1) エリア全体の環境に関する活動	① 将来像・プランの策定	◎	×	◎	◎	×	◎	◎	×	◎
	② 街並みの規制・誘導	×	×	×	×	×	×	×	×	×
(2) 居住環境や地域の活性化に関する活動	① 防犯性の維持・向上	◎	×	◎	◎	◎	◎	○	×	○
	② 快適性の維持・向上	△	○	○	◎	○	◎	◎	◎	◎
	③ PR・広報	×	○	○	×	○	○	×	○	○
	④ 地域経済の活性化	○	×	○	◎	×	◎	◎	×	◎
	⑤ 循環型住宅供給システムの導入	◎	×	◎	◎	×	◎	×	×	×



うまくいかず苦労したこともありましたが、大きく成長できたと思える約2年間でした。  
就職先：株式会社イチケン

## 住民と来街者の違いによる歴史的街並みの価値評価に関する研究

- 黒石市中町重要伝統的建造物群保存地区におけるアンケート調査から -

佐藤 桂一

### 1. 背景・目的

近年地方都市の人口減少や街の衰退化とともに来街者が減少し、歴史的街並みの維持・保全が困難、また歴史的街並みを活かした観光資源化が市の政策課題となっている。その街並みが中心的存在となるのか明確にし、地域住民と来街者の歴史的街並みに対する価値の評価傾向を把握する必要がある。本研究はその価値を定性的・定量的観点から分析し、評価の違いの有無を確認し、背景等を考察することで、歴史的街並みの観光資源化を図るための今後の展開を考察する。

### 2. 研究方法

定性的価値と定量的価値を把握するために住民と来街者にアンケート調査を行った。また、定量的評価には仮想評価法（CVM）を用いた分析を行い、街並みの価値を支払意思額（WTP）として算出し、比較した。

### 3. 結果・考察

定性的価値評価では住民より来街者の評価が高いことが明らかになり、それは定量的価値評価でも確認できた。WTPの推定結果から「住民全体<来街者全体」という結果になり、これは一般的な傾向（既往研究）を示していた。しかし、住民の地区別のWTPは「中心地区内>中心地区外」という結果となった。また、来街者の住まい地別のWTPは推定結果に妥当性がなかったため、参考値として提示したが、一般的な傾向（既往研究）が見られた。

本研究から、住民と来街者には評価に違いがあることが明らかになり、観光資源化を図るためには、中心地区内の住民の積極性を活かす取り組みが必要であると考えられる。その後、来街者の目線での評価を意識することが重要と考えられる。



図1. 地区別（住まい地別）の価値評価の比較



先生方、ゼミ生みんな、お世話になりました！  
就職先：株式会社大進建設

- 栃木市嘉右衛門町地区を対象として -

1. 背景・目的

重伝建地区は、歴史的な町並み保存や魅力的なまちづくりのために活用すべき資源である。しかし近年、空き家が増加しており、様々な主体の協働が求められる。特に地域の古くからの構成員である住民等組織の取り組みが期待される。そこで本研究では、住民等組織が主体となって空き家利活用に取り組む地区の、利活用の進展要因を考察し、重伝建地区の空き家利活用に対する有用な知見を得ることを目的とする。

2. 研究方法

始めに、全国 100 の重伝建地区の行政担当者に対しアンケート調査を行った。その結果から栃木市嘉右衛門町地区を対象として、行政と住民等組織にヒアリング調査を実施し、町並み保存期、ネットワーク形成期、空き家利活用指導期の 3 期に分けて整理した。

3. 結果

嘉右衛門町地区では、まず主に行政が景観整備を始め、複数の住民等組織が町並みを活かして活動した。この重伝建地区選定前後の活動は、地域住民の町への愛着を生み、地区外の人々にとっては嘉右衛門町の認知に繋がった。また、各組織の継続的な活動により、主体間の信頼関係と共通認識が育まれた。更に地区外の専門家が加わり、互いに連携・協力体制を構築できた。その後、専門知識を持つ多彩なメンバーで情報共有と議論を重ね、質の高い空き家利活用が実現できた。

以上より、空き家利活用を円滑に進めるために、利活用に取り組む組織内の仕組み作りの他、それ以前の地区の魅力発信や連携体制の構築等、新たな活動を始めるための基盤作りが重要であり、この知見は他の重伝建地区でも一定の汎用性があると考えられる。

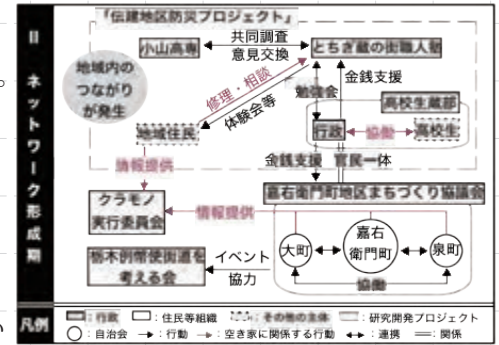


図. II期における主体間の繋がり



学びが多く充実した毎日がありました！  
進学先：千葉大学大学院

地方都市におけるリニア新駅設置に伴う都市計画的課題の考察

- 当該都市の将来都市構造の変化および設置済み整備新幹線の駅周辺土地利用の変化から -

1. 背景・目的

リニアは整備新幹線を上回る速達的な都市間交通を担う予定であり、その駅は広域的な機能を有するため、駅の立地に伴う都市計画的影響も大きい。本研究では 2 つの分析を行い、都市計画的課題を考察した上でリニア新駅周辺整備を進めるにあたっての有用な知見を得ることを目的とする。

2. 対象・方法

リニア新駅は山梨県駅、長野県駅、岐阜県駅を、設置済み整備新幹線駅は岐阜羽島駅、新玉名駅、黒部宇奈月温泉駅を研究対象とした。将来都市構造の分析では、リニア整備計画決定「前」・「後」の MP を用いて拠点と軸と土地利用の整理を行った。駅周辺土地利用の分析では、計画図書と地図資料を用いて土地利用の比較分析を行った。資料分析の不足はヒアリングで補填した。

3. 結果

3-1. リニア新駅決定による将来都市構造の変化

リニア新駅が設置される 3 都市の共通点は、①新駅周辺が拠点として位置付けられていること、②都市構造全体の広域化または拠点間の連携強化、又はその両方、③用途指定または新駅周辺に新たな土地利用区分が設けられていること、又はその両方であった。

3-2. 設置済み整備新幹線に関わる駅周辺土地利用の変化

現在の駅周辺土地利用の計画実現度に関して、3 駅すべてに違いが見られた。

4. まとめ

山梨県駅は、交通結節機能を除く重要な土地利用において慎重な検討が必要である。長野県駅は再検討の必要はなく、交通面から優先的に整備を進めていくべきである。岐阜県駅は再検討の必要はなく、産業誘致から積極的に進めていくべきである。

	リニア中央新幹線		
	リニア山梨県駅 (仮)	リニア長野県駅 (仮)	リニア岐阜県駅 (仮)
設置済み整備新幹線 黒部宇奈月温泉駅 [B]	α: 計画段階の位置づけ β: 人口の減少傾向が緩やか	×	▲: β: 乗換駅がある
岐阜羽島駅 [A]	×	●: α: マスタープランと整備計画に整合性がある	●: α: マスタープランと整備計画に整合性がある β: 乗換駅がある
新玉名駅 [C]	▲: β: 都市計画区域 β: 立地の悪さ	▲: β: 人口の減少傾向が強い	▲: β: 人口の減少傾向が強い

※●: 状況が類似している、▲: 類似点はあるが根拠が弱い、×: 類似点が見られない  
※α: 根拠のある類似点、β: 根拠の弱い類似点



素敵な出会いがあってその楽しい 4 年間でした。  
就職先：株式会社フジタ

## セミナー | 基礎調査

\ 専門用語に注意! /

私は自身の研究テーマを「秋田県横手市増田町増田地区における歴史的景観形成に係る取り組みの特徴に関する研究」として設定した。増田地区は重要伝統的建造物群保存地区



に選定されており、伝統的建造物群保存事業と街なみ環境整備事業の2つの事業が行われていた。

そこで6セメスターでは伝統的建造物群保存事業と街なみ環境整備事業の概要について調べてきた。その中で、「修理」「修景」のように一般的な意味とは少し違った定義がなされた用語があった。一般的に、「修理」は「壊れた部分を直すこと」、「修景」は「風景を整備すること」とされている。しかし、これらの事業においては「修理」は「伝統的建造物を健全な状態に直すもの」、「修景」は「伝統的建造物以外の建造物を歴史的風致と調和させること」とされている。このように事業で使われている用語の意味や事業の概要をしっかりと調べ、今後行うヒアリング等の調査がスムーズに進むよう準備をしていきたい。

(藤井智也)

## 新4年生研究テーマ

高橋 樹凜

「住民参加型の事業拠点整備に関する研究」

藤井 智也

「秋田県横手市増田地区における歴史景観形成に係る取り組みの特徴に関する研究」

南山 匠

「市場におけるニューノーマル時代のあり方に関する研究 - 本荘駅前市場を事例に -」

山岸 大地

「秋田市総合都市計画における変化の分析」

吉田 乃枝

「地方における世代別イメージに関する研究」



## 卒業設計

### Rhizome of Food

都市・建築計画学研究グループ 込山ゼミ 笹 恭輔

#### 1. はじめに

衣食住という人間にかかわる3要素において、衣服と建築はグローバル化され、地域の特性を失い、どこも均一で似たようなものにとって変わられていく中で、食の分野だけはグローバルとローカルが共存しています。寿司のカリフォルニアロールのように、食は均質に広がっていかず、食が伝わった地方の住民の好みに変化し、その土地ならではのアレンジが加えられます。このように食は地方の風土や人、文化と絡み合い、魅力的な変化を遂げていきます。

#### 2. 設計概要

これらのような食の魅力を卒業設計のテーマとし、食が複雑に入り混じる（錯綜する）ことで発生する食・人・文化の変化を楽しむため、「Rhizome of Food」としました。

そして、健康問題に悩む青森県青森市浪岡に、食に対する意識を高め、日本の食と世界の食への理解を深めること、運動不足解消のため、生活すること自体が運動となるという二つの機能を兼ね備えたフードパークを提案します。

#### 3. 最後に

卒業設計では、自分自身の建築をどう楽しむか、楽しんでもらうかを常に考え、動画を制作しました。YouTubeにPVをアップロードしていますので、ぜひご覧ください。



施設紹介動画



プロモーションビデオ  
ナレーション付き

# 2020 年度下半期のニュース

ゼミ Facebook  
2020 年度下半期  
編集部ピックアップ



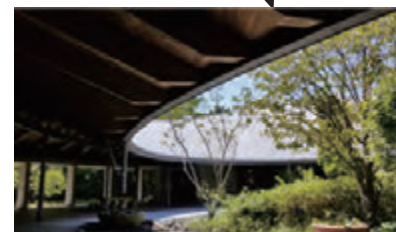
※ゼミの Facebook より、  
閲覧数の多いものとなりました。

## ●世界

イギリスでは、アメリカの製薬大手ファイザーとドイツの企業ビオンテックが開発した新型コロナウイルスのワクチン接種が 2020 年 12 月 8 日より始まった。また、2021 年 4 月 10 日時点で、世界で新型コロナウイルスワクチンを少なくとも 1 回接種した人数は 4 億 3 千万人を超過しており、イギリスの新たな感染者数は減少傾向が続いている。

国	接種人数
アメリカ	117,422,879人
インド	88,885,361人
イスラエル	52,010,244人
フランス	20,513,828人
ドイツ	17,570,288人
トルコ	10,895,331人
フランス	10,544,541人
インドネシア	10,002,501人
メキシコ	9,227,666人
イタリヤ	8,950,102人
ロシア	8,575,351人
中国	7,354,822人
スペイン	7,159,316人
カナダ	7,020,562人
ハンガリー	5,603,450人
ポーランド	5,529,319人
イギリス	5,310,210人
アルゼンチン	4,428,948人
韓国	1,565,850人
日本	1,001,595人

引用：NHK オンライン特設サイト 新型コロナウイルス  
[https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/vaccine/world\\_2021/#mokuji8](https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/vaccine/world_2021/#mokuji8)



①牧野富太郎展示館 (9/10 投稿)  
内藤廣氏の設計の植物学の聖地、  
牧野富太郎展示館を訪れた。  
(山口邦雄 教授)

## ●日本

大学入学共通テストは、大学入試センター試験にかわり導入され、2021 年 1 月 16・17 日の二日間の日程で実施された。共通テストでは思考力や判断力がより重視されるようになり、知識を活用して読み解く力が求められる内容となっている。2025 年からは「情報」を加え、7 教科 21 科目に再編すると発表もあった。



引用：NHK オンライン <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210130/k10012840601000.html>



②抱返り溪谷 (10/3 投稿)  
友人と仙北市へ。大自然に触れ、  
エネルギーを貰った。  
(19 期卒業生 佐藤桂一)

## ●秋田

秋田県内陸南部を中心とした記録的大雪を受け、2021 年 1 月 5 日、県は 15 年ぶりに陸上自衛隊に対し災害派遣を要請した。横手市では、積雪が平年の 4 倍近くになっていた。この冬の大雪で農業施設の被害が約 16 億 8 千万に上り、被害額は合併以降最大となった。



引用：朝日新聞デジタル <https://www.asahi.com/articles/ASP1665NWP16ULUC022.html>



③津波伝承館 (10/19 投稿)  
岩手県住田町に調査用務の後、  
陸前高田の東日本大震災津波伝承館へ。  
災害への思いを巡らせた。  
(山口邦雄 教授)

## ●研究室内

11 月 15 日に秋季日帰り研究会を実施した。春季はコロナ渦の影響で研究会を実施できなかったが、山形県遊佐町に訪れ日帰りという形で実施することができた。

短い時間ではあったが、空き家活用事業でできた古民家カフェわだや、パン屋小むぎ、清水森食堂に立ち寄り、有意義な時間を過ごすことができた。



## 卒業証書授与式

ナイスアリーナでの卒業式の後、本荘キャンパスにて学科ごとに授与式が行われました。卒業生と一部の教員のみが会場に出席し、その他の教員はリモート参加となり、保護者向けには YouTube が配信されました。まずは、自分の手で卒業証書を受け取れたことを嬉しく思います。そして、「35 歳までは何事もチャレンジなさい」という山口先生の言葉を胸に、4 月から頑張ります。

(19 期卒業生 樋口真由)



④茅葺き小屋作り体験 (10/31 投稿)  
創造学習の一環として行った茅葺き小屋作り体験。骨組みを組む工程から軒付けまで行った。  
(李雪 助教)

# OB 紹介

皆さんこんにちは。山口ゼミ 13 期生の畠山大輝です。このような機会をいただき、大変嬉しく思っています。

さて、私はミサワホーム・住宅メーカーの業界で働いています。ミサワホームや住宅メーカー業界と聞くと、住宅を思い浮かべる方が多いかと思われるのですが、弊社では大きく住宅・リフォーム・不動産・資産活用の 4 事業部を展開しています。

入社後、東日本大震災により甚大な被害を受けた岩手県や宮城県の沿岸部にて災害公営住宅の公共事業に携わり、大変貴重な経験をしました。いまだにカーナビが示している町並みと現地の景色が全く違ったことに大きく衝撃を受けたことを覚えています。

現在は先に挙げた資産活用の部門でクリニックや企業主導型保育園・就労支援施設といった用途の建物の建設に携わっています。

入社してそろそろ 7 年目となりますが、まだまだ知識・経験不足で日々勉強していかなければと感じています。都市アメ研を出て住宅メーカーへ…という方は少ないと思われるのですが、興味のある方は山口先生を通じて気兼ねなくご連絡いただければと思います。

在学中に関わった石脇地区の活動について、13 期の頃は石脇地区の方へアンケート・ヒアリング・田屋の利活用検討といった活動をしていました。進展した内容（たんころりん、浴衣で歩く、田屋のリニューアル等）を N.L. で見るたびに、在学中の皆さんを羨ましく思っています（笑）石脇地区の活動を今後も楽しみに待っています。

また、在学中に研究していた重伝建地区が 108 から 123 地区に増え、重伝建巡りの旅をしたいと思っていますが、仕事が多忙なこともあり中々行けていません。学生の皆さんは在学中に勉学に励みつつ旅行に行かれては如何でしょうか？

最後になりますが、都市アメ研での活動は必ず自分の糧になり、とても貴重な経験・体験になります。今できることを目一杯楽しんでください！

(13 期卒業生 東北ミサワホーム株式会社 資産運用活用本部 資産建設部 資産建設課 畠山大輝)



※コロナ禍前、趣味のダンス

# 写真コンテスト 佳作作品

## 「エムウェブ」

長野県長野市 山岸大地  
長野オリンピックでスピードスケートの会場として建設された建物で、信州の山並みをイメージした構造になっています。



## 「氷川丸」

神奈川県横浜市 南山匠  
山下公園から見える氷川丸です。氷川丸の中も見学できる仕様になっています。



## 「エーフレーム」

山形県遊佐町 高橋樹凜  
鳥海山の麓にあるセルフビルドの三角形の住宅です。天気の良いと窓から鳥海山を眺めることができます。



# 今年も全員発表しました



今期の都市計画学会の東北支部研究発表会が、COVID-19 の影響から集まることができず、Zoom 利用によるオンライン形式で 2/27 (土) に開催されました。東北 7 大学・2 高専から 41 題の投稿があり、3 つのブレイクルームに分かれての発表でした。

当ゼミからは卒論生 4 名全員が発表し、各大学の先生方から厳しい質疑の洗礼をうけました。ただ、ゼミ生は臆すことなく堂々とやりとりでき、成長の著しさを実感できました。

(山口邦雄 教授)

会場	Sessi.n	発表	司会
1	No. 1 駅・拠点・交通	5題	松川寿也 (長岡技大)
	No. 2 復興	5題	斎藤充弘 (福島高専)
	No. 3 防災・防犯	4題	村尾修 (東北大)
2	No. 4 住宅・居住環境	6題	川崎興太 (福島大)
	No. 5 エリアマネジメント	4題	小地沢将之 (宮城大)
3	No. 6 中心拠点	3題	村上早紀子 (福島大)
	No. 7 市街地・施設の変容	4題	山口邦雄 (秋田県立大)
	No. 8 歴史まちづくり・景観	6題	三宅倫 (岩手大)
	No. 9 産業と都市計画	4題	原田栄二 (東北大)

## 〜編集後記〜

今年も多くの皆様のご協力により、無事 25 号が完成しました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの流行から 1 年が経ちましたが、まだまだ油断できない日々が続きます。新しい社会に対応しながらゼミ活動を続けていきたいと思ひます。今後ともご愛読のほど、よろしくお願ひ致します。〈2021.05.〉 N.L. 編集部：高橋樹凜 吉田乃枝 山口邦雄

URPS 編集部

〒015-0055

秋田県由利本荘市土谷字海老ノ口 84-4

秋田県立大学システム科学技術学部建築環境システム学科

☎: 0184-27-2053 e-mail: yamaguchi-k@akita-pu.ac.jp

担当 山口 邦雄